

We are family ~留学生の出前交流~

International students world cultures project

異文化交流チーム

松本龍郎, 吉川愛美, 劉李子, 張袁, グエーン ホーン フーン アン, 安雨婷

指導教員 福田恵子

拓殖大学 国際学部 国際学科 福田ゼミナール

現在八王子市では、各中学校で充分な異文化交流ができる環境が整っておらず、大きな需要に対して国際団体もすべてに対応出来ない状態にある。そこで私たちは、留学生を各中学校に派遣できるより良い環境をつくるため、中学校への電話取材や留学生へのアンケート調査を行い、現在の実態や要望などを聞き、そこから、より良い異文化交流のためのシステムを考えた。

キーワード：異文化交流、留学生、中学校、国際化、交流アクセス

1. 目的

2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、日本ではますます国際化に向けた動きが盛んになっている。八王子市内の中学校でも英語の時間の他に、外国の方を講師として招き、講師の母国や文化を紹介してもらうという活動を積極的に行う学校が増えてきている。

ゼミナールの指導教員である福田教授のもとにも知人を通して各学校からの留学生派遣の依頼が舞い込む。しかし、このような個人的なルートには限界があり、中学生と同時に授業を受けている留学生を派遣するには時間調節も大変な仕事になる。

一方で、八王子市には八王子国際協会という国際交流などの事業を行う団体があるが、外国人の派遣が中心的な活動ではないにもかかわらず、近年中学校からの国際交流の要望が増え、すべてに対応するには難しい状況だそうだ。

今後、より国際化していく中で増え続ける学校での国際交流に関して、この問題をどのように解決していくべきかを私たちは提案する。

2. 調査内容

<八王子市内の中学校への電話取材>

中学生と留学生との異文化交流の状況を調べるためにあたり、東京都八王子市にある中学校 38校に電

話取材を行った。そして 38 校中、33 校に協力していただいた。それによると、33校中 19校(58%)の中学校が国際交流を行ったことがあると回答。また、国際交流を行ったことがあると回答した中学校の中で、留学生を招く際に利用しているルートとして挙げられたのは、国際理解支援協会(留学生は先生)、JICA、八王子 国際協会などの団体で、その他、大学の紹介を経て異文化交流を行なっている中学校も多くあった。しかし、毎年同じように行っているわけではなくルートが定まっていない学校が多く見られた。留学生の出身地域は、中国、韓国などの北東アジアをはじめ、東南アジアやヨーロッパなど、幅広い。交流内容についてもさまざまで、留学生が主体で交流する学校もあれば学校側が事前学習を行い、それに沿って交流するといった方法も見受けられた。また、交流する留学生は八王子市外からの留学生が多いことがわかった。一方、異文化交流を行ったことがないと回答した中学校は「どのように留学生を招いたら良いのかわからない、国際交流よりも地域の文化理解に力を入れている」などを異文化交流を行ったことがない理由として挙げた。そして、33校中 24 校(73%) の中学校が今後異文化交流を行いたいと回答し、異文化交流への関心が高まっていることがわかる結果となった。

<留学生への異文化交流アンケート>

今回は本学部の留学生 50 名に協力してもらい「留学生の異文化交流事情」について調査した。まとめたデータによると「日本人の中学生との異文化交流に参加したい人」は「アルバイトをしていない人」が全体の 76%を占めているということが分かった。このことからアルバイトをしていない留学生は、空いている時間が多く、その時間を利用して、日本人と交流できる機会を増やそうとしていることがわかる。参加したい理由を詳しくみると「日本語の練習のため」が一番多く、「日本人にとっての母国のイメージを知りたい」、「母国のことの紹介したい」というものが続いた。

参加したくない理由については「年齢差がある」や「異文化交流自体に興味がない」と書いた人が多い。また、「参加したくない人」がどうしたら参加したくなるかについては、同じ趣味や関心のある話題を望む意見や、交流を行う形式によって参加するかしないかを決めるなどの意見があった。

交流形式は「スピーチ、グループ活動、自由行動、その他」の 4 つの選択肢の中で、グループ活動を選んだ人は 33 人と多かった。グループ活動が多い理由は、皆がやりたいことや興味がある話題を決め、それを中心に進めていくことにより、和やかな雰囲気に包まれ、コミュニケーションもかなり促進できるからではないかと推測した。

今までに日本人の学生と交流したことがあって良かったと思う点は、現代の日本人学生がどのような生活を送っているのかを知ることができたという点である。不満な点については、話題が合わない、関心があるものが違うという点が多かった。

異文化交流を行う回数については、月に一回を選んだ人が多い。週に一回だと、頻度が高く、話す話題がすぐ無くなってしまう。月に一回だと、この一か月に何が起きたか、その記憶がまだあるうちに、みんなでシェアすることができ、話す時間も長くなるからだろう。

3. 提案

以上の調査結果より、私たちは以下の仕組みを

提案する。それは、大学教員と小中学校の先生が直接やり取りできる仕組みが備わった「留学生出前交流」というサイト作りというものである。

今現在八王子市内の中学校では既に国際交流を行っている学校が 19 校ある。その一方で「やりたくてもできない」「どんな仕組みがあるのか分からぬ」という中学校もあり、この仕組みを八王子市内の学校に広めることにより八王子市内での身近な異文化交流を行うことができるようになる。

この仕組みは、大学の教授がサイト上に「時間、場所、交流の目的」を掲示板に書き込み、それを見た小・中学校の先生がコメントをし、直接やり取りが行えるようにする。実際に進行する交流内容に関しては、今まででは交流団体側に任せている学校が多かったが、今回の提案では、それぞれの学校にやりたい企画を提案してもらい、大学教員との調整を経て、実行に移すというものである。さらに、学校側には留学生へ交通費程度の負担をしてもらいたい。

東京五輪や将来外国人が多く来日することを想定して、サイトを作成することにより、今から異国の人々との交流を行なえば、現段階よりも将来はスムーズに交流を行うことができる。また、今まででは学校側が大学への直接連絡、八王子国際協会への依頼、八王子市以外のシステムを利用し交流をしていたが、現在、八王子市では「多文化共生推進プラン」があり、掲げられている基本目標、施策柱、重点施策を達成するために役立つのではないかと考える。

<交流内容と異文化交流をする意義について>

国際交流団体や異文化交流に積極的な中学校では、留学生からの国や文化の違いを受容するようなものだけでなく、「お互いに学びあい、国の文化や習慣の違いを受け入れあい、理解し合う」というところに重点を置いているところが多い。

私たちはそういった交流内容の実現のためにも、現在、市内の中学校と交流計画を進めており、今後はその経験を踏まえながら、八王子の国際化に役立つシステムを目指したい。